

誰かに大事にされる経験



19日(金)、年長のひまわり組のお弁当の時間、わたしも一緒にお弁当を食べました。おうちの人に作ってもらった緑や赤のいろどりもきれいなおいしそうなお弁当です。どの子も幸せそうに食べています。

食べ終わると、子どもたちは静かにお絵かきをしたり、絵本を読んだりして「ごちそうさま」の時間を待ちます。そして、決められた時間になったので、当番の子が前に出て「ごちそうさまでした。」と感謝の言葉を言って、お弁当の時間は終わりました。

でも、まだ食べ終わらない子がいます。子どもたちは一人一人みんな違いますから、それは仕方のないことです。あともう少しだけなのですが、なかなか食べ終われません。

すると、その子のそばを通った女の子が、小さな声で「だいじょうぶだよ」と声をかけました。そして、そっと背中をさすってあげたのです。誰かに言われたわけではありませんし、先生にお願いされたのでもありません。その姿を見て、わたしはとてもうれしい気持ちになりました。

何か悲しいことがあったときに、お母さんか誰かにそうしてもらったことがあったのかもかもしれません。そういう誰かに大事にされた経験は、心の中にずうっと残っています。そうして誰かが困っていたら、自然に言葉をかけてあげることができるのだと思います。

子どものそばにいと、こういう姿に出会うことがあります。優しい子どもたちです。

園庭がきれいになっていきます

6月に入り、幼稚園も通常の保育活動ができるようになりました。子どもたちは園庭が大好きです。雨でない限り、どの子も園庭に出て、存分に駆け回って遊んでいます。子どもたちにとって、園庭は学びの場所です。小学校で言ったら、教科書のようなものです。

その園庭の草取りをしてくださる方々があります。

「少しだけ、時間があるので、草をとっていきます。」と言って、草取りをしてくださいます。本当にありがとうございます。誰かが始めると、それを見た別の誰かも草取りをしてくださる。人のつながりが生まれ、ボランティアの輪が広がっていきます。そうして園庭は少しずつきれいになっていきます。

ありがとうございます。



〔園庭の草取り、ありがとうございます〕